

(公財)京都市音楽芸術文化振興財団	令和3年度経営計画 兼 経営努力結果
-------------------	-----------------------

基本事項

所管局課	文化市民局文化芸術都市推進室 文化芸術企画課	本市出えん金	55,000 千円
基本財産/資本金	103,000 千円	本市出えん率	53.4 %

当年度の取組目標

業務面	<p>目標 「各施設の利用促進」</p> <p>京都コンサートホール及び地域文化会館（5館）については、長期間利用の無い団体や、他施設を利用している団体については、DMの送付及び各種助成金制度の広報・宣伝をしており、平日の利用促進を図るほか、施設の空き情報をホームページで発信する。</p> <p>ロームシアター京都については、キャンセルが発生した場合、抽選で落選した団体に声をかけるなど、利用の促進に努める。</p> <p>なお、令和2年度については各施設において、新型コロナウイルス感染症の影響で利用のキャンセルが相次ぎ、利用料金収入の減収及び利用率が著しく低下したことから、それらの回復にも努める。</p>
財務面	<p>目標 「サポーター・パートナー会員収入」</p> <p>前年度に引き続き、制度趣旨について、多数の市民に、また社会貢献活動に関心のある企業の方々に、ご理解・ご賛同をいただく。</p> <p>また、令和元年度から担当職員を増員しており、現在の会員加入者の皆様には細やかに対応し、継続していただきつつ、新規加入者を獲得し目標設定の6,700千円を目指す。</p> <p>法人：サポーター 35口 3,500千円 〃：スペシャルサポーター 5口 500千円 個人：パートナー 54口 1,080千円 〃：スペシャルパートナー 81口 1,620千円 計6,700千円</p>
組織面	<p>目標 「経営基盤を強化するための適正かつ弾力的な人員配置」</p> <p>指定管理施設(7施設)の指定管理期間の3年目を迎えるとともに、令和元年度に策定した京都市交響楽団ビジョンに掲げた5つの戦略の具体的な取組を推進するために、効果的・効率的・安定的な事業執行を実現する体制を確立する。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響による減収により、財政的にも厳しい状況ではあるが、中長期的に財団を支える職員の人材育成に努めるためにも、引き続き、プロパー登用試験を実施する。</p>
その他	<p>目標 「京都市からの派遣職員の削減の検討」</p> <p>地方公務員法等の改正に係る京都市交響楽団員の財団職員化を受け、より効率的な組織の在り方や必要な人員体制、財団独自の人材育成について更なる検討を進める。</p>

当年度の取組目標に対する意見

所管局	<p>各目標に掲げられているとおり、更なる利用の促進やパートナー収入の増収に努め、安定的な経営を行うとともに、経営基盤の強化に向け、人員配置や人材の育成に努めてほしい。加えて、ロームシアター京都、京都コンサートホール及び地域文化会館5館が京都の文化の発信の一翼を担う重要な施設であることを再認識し、魅力ある自主事業展開と本市関連施設との連携も進めてほしい。新型コロナウイルス感染症の影響により従来どおりの運営が困難な状況にあるが、本市と連携のうえ、効率的かつ効果的な組織運営を進めてほしい。</p>
-----	---

当年度の取組目標に対する総括(※)

団体	<p>業務面において、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの財団自主公演で中止やプログラムの変更等を行うこととなったが、感染拡大防止対策を適切に行いつつ、京都の文化芸術の魅力を様々な方法により発信するべく取り組んだ。</p> <p>財務面については、新型コロナウイルス感染症の影響により、貸館利用のキャンセルが相次ぎ、前年度同様に厳しい財政状況になるなど先行きが見通せない1年となったが、少しでも回復するべく努めた。</p>
所管局	<p>サポーター・パートナー会員収入等目標の達成には至らなかったものの、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中でも感染拡大防止に努めながら催しが開催できるよう工夫し、利用促進に向けた取組みを推進したことが評価できる。また、「中期経営計画2025」の策定やプロパー登用試験の実施等、より効率的かつ安定的な経営を目指すための検討を進めた。引き続き、財政運営の早期回復と組織体制の強化に努められたい。</p>

(公財)京都市音楽芸術文化振興財団

令和3年度経営計画
兼 経営努力結果

(1)業務に関する取組

目標「各施設の利用促進」	
当年度目標	<p>京都コンサートホール及び地域文化会館（5館）については、長期間利用の無い団体や、他施設を利用している団体については、DMの送付及び各種助成金制度の広報・宣伝をしており、平日の利用促進を図るほか、施設の空き情報をホームページで発信する。</p> <p>ロームシアター京都については、キャンセルが発生した場合、抽選で落選した団体に声をかけるなど、利用の促進に努める。</p> <p>なお、令和2年度については各施設において、新型コロナウイルス感染症の影響で利用のキャンセルが相次ぎ、利用料金収入の減収及び利用率が著しく低下したことから、それらの回復にも努める。</p>
当年度結果 (※)	<p>京都コンサートホール、ロームシアター京都及び地域文化会館（5館）について、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標値の78%に留まり、目標設定していた利用料金収入額を達成することができなかった。</p>

指標	施設利用料金収入 (単位：千円)							
	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
目標と実績	758,400	751,470	775,212	750,192	792,509	328,878	782,327	605,093

(2)財務に関する取組

主要財務数値 (単位：千円)							
	令和元年度		令和2年度		令和3年度		備考欄
	予算	実績	予算	実績	予算	実績(※)	
経常収益	2,959,495	2,749,335	3,027,858	2,569,903	3,001,583	2,898,554	
経常費用	3,005,997	2,828,148	3,110,590	2,584,284	2,999,410	2,829,571	
当期経常増減額	△ 46,502	△ 78,813	△ 82,732	△ 14,381	2,173	68,983	
当期正味財産増減額	△ 46,502	△ 79,133	△ 33,132	6,108	2,173	68,663	
資産合計	-	1,461,418	-	1,426,672	-	1,578,148	
負債合計	-	810,645	-	739,791	-	822,603	
正味財産	-	650,773	-	686,882	-	755,545	

目標「サポーター・パートナー会員収入」	
当年度目標	<p>前年度に引き続き、制度趣旨について、多数の市民に、また社会貢献活動に関心のある企業の方々に、ご理解・ご賛同をいただく。</p> <p>また、令和元年度から担当職員を増員しており、現在の会員加入者の皆様には細やかに対応し、継続していただきつつ、新規加入者を獲得し目標設定の6,700千円を目指す。</p> <p>法人：サポーター 35口 3,500千円 〃：スペシャルサポーター 5口 500千円 個人：パートナー 54口 1,080千円 〃：スペシャルパートナー 81口 1,620千円 計6,700千円</p>
当年度結果 (※)	<p>例年通り、既存会員には企業・個人共に案内を行ったが、長引くコロナ禍において、主に個人の退会や寄附金減額が目立った。目標値の達成には大きく至らなかったが、会員通信の内容充実や主催公演開催時の案内折り込みの持続など、既存、新規共に働きかけ、会員の獲得に努めた。</p>

指標	サポーター・パートナー会員収入（単年度）の目標値 (単位：千円)							
	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
目標と実績	6,000	6,423	6,300	6,580	6,600	6,270	6,700	5,250

(公財)京都市音楽芸術文化振興財団	令和3年度経営計画 兼 経営努力結果
-------------------	-----------------------

(3) 組織に関する取組

目標「経営基盤を強化するための適正かつ弾力的な人員配置」	
当年度目標	<p>指定管理施設(7施設)の指定管理期間の3年目を迎えるとともに、令和元年度に策定した京都市交響楽団ビジョンに掲げた5つの戦略の具体的な取組を推進するために、効果的・効率的・安定的な事業執行を実現する体制を確立する。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響による減収により、財政的にも厳しい状況ではあるが、中長期的に財団を支える職員の人材育成に努めるためにも、引き続き、プロパー登用試験を実施する。</p>
当年度結果 (※)	<p>指定管理施設(7館)の指定管理期間の3年度を迎え、さらに効果的・効率的・安定的な事業執行を実現する体制の確立を行った。</p> <p>また、プロパー職員の登用試験を実施し、中長期的に財団を支える職員の人材育成にも努めた。</p>

指標	適正かつ弾力的な人員構成を測るための具体的なスケジュール							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	<ul style="list-style-type: none"> 必要な人員体制の確立 中長期的に財団を支える職員のプロパー登用 	<ul style="list-style-type: none"> 次期指定管理の獲得を見据えた、人員体制の確立 プロパー登用試験の実施(平成30年度プロパー登用者 7人) 	<ul style="list-style-type: none"> 適正かつ弾力的な人員構成の検討 中長期的に財団を支える職員のプロパー登用 	<ul style="list-style-type: none"> 京都市交響楽団ビジョンに掲げた取組の推進を見据えた、人員体制の確立 プロパー登用試験の実施(令和元年度プロパー登用者 3人) 	<ul style="list-style-type: none"> 適正かつ弾力的な人員構成の継続的な検討 中長期的に財団を支える職員のプロパー登用 	<ul style="list-style-type: none"> プロパー登用試験の実施(プロパー登用者1人) 	<ul style="list-style-type: none"> 適正かつ弾力的な人員構成の継続的な検討 中長期的に財団を支える職員のプロパー登用 	<ul style="list-style-type: none"> プロパー登用試験の実施(プロパー登用者6人)

(4) その他の取組

目標「京都市からの派遣職員の削減の検討」	
当年度目標	<p>地方公務員法等の改正に係る京都市交響楽団員の財団職員化を受け、より効率的な組織の在り方や必要な人員体制、財団独自の人材育成について更なる検討を進める。</p>
当年度結果 (※)	<p>当年度においては、本市からの派遣職員の削減は行わなかった。地方公務員法等の改正に係る京都市交響楽団員の財団職員化、財団全体の中長期的な運営を見据えながら、より効率的な組織の在り方や必要な人員体制、財団独自の人材育成について更なる検討をしていく。</p>

指標	派遣職員数削減に向けた検討スケジュール							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	財団職員配置と連携した派遣職員数の検討	財団職員配置と連携した派遣職員数の検討し、1名の削減を行った。	財団職員配置と連携した派遣職員数の検討	派遣職員数 6名	財団職員配置と連携した派遣職員数の検討	派遣職員数 6名	財団職員配置と連携した派遣職員数の検討	派遣職員数 6名